

# 電子処方箋「学ぶ場」に

## 医薬連携情報共有研究会が発足



薬局薬剤師や大学関係者が集まり開かれた第1回目の講演会

病院や診療所、薬局、患者がデータベースを介して様々な情報を電子的に共有するシステムのあり方を、薬剤師の視点から考える「医薬連携情報共有研究会」がこのほど、徳島文理大学香川薬学部を事務局として発足した。香川県では今年3月まで電子処方箋の実証実験が行われ、10以上の薬局の薬剤師が電子的な情報の共有化を体験した。ここで得た経験をもとに、引き続き関係者の意識を啓発したいと考えた。

同研究会は、文部科学省設置された。薬剤師や薬学関係者の大学間連携共同教育推進係者、薬業関係者に幅広く参加してもらい、電子的な情報共有のあり方について部連携・共同による薬学教育改革の一環として設けられる場として活用する。

第1回目の講演会を3月に徳島文理大学薬学部で開催したのを皮切りに今後、定期的に講演会などを開く計画だ。香川県下では08年度から3年間、文科省の補助金を受けて電子処方箋の実証実験が行われた。さらに11年度から

電子的に記録できる。その情報を薬局薬剤師がネット上で閲覧することも可能だ。また、一般名の処方箋を受けた薬剤師が実際にどの医薬品を調剤したかという情報も、医師にフィードバックできる。このシステム構築に深く関わった徳島文理大学香川

薬学部准教授の飯原なおみ氏は、薬局薬剤師の役割や働きに強い期待を寄せている。処方箋の情報だけでなく、病名など様々な情報を容易に閲覧できる仕組みを構築することによって、薬局薬剤師はより質の高い業務を展開できると考えている。実際に電子処方箋の実

## 「実践創薬科学講座」を設置 名古屋大と田辺三菱が連携

名古屋大学は田辺三菱製薬と連携し、大学院創薬科学研究所に産学協同研究講座「実践創薬科学講座」を今月、開講した。名古屋大学は、従来の寄付講座とは異なる産学協同研究講座・部門制度を構築し、企業側にも活用を働きかけている。同講座はその第1号の講座として設立されたもの。

同講座の開講期間は2018年3月末までの5年間。田辺三菱製薬からの派遣として大森謙司氏が特任教授に、下村猛氏が特任准教授にそれぞれ就任した。大学の研究環境を活用した創薬に取り組むと共に、創薬研究者の育成も手がける。

## 実情に合わせてBCP作成を 日薬・災害担当者会議

日本薬剤師会の2012年度全国災害対策担当者会議がこのほど開かれ、地域状況に合わせた事業継続計画(BCP)の作成を進めること、災害協定書の締結を促した。児玉孝会長は「実際の災害対策においては、災害協定書が大きな役割を果たした。ボランティアとして支援活動に参加するにしても、プロとしてでなく、ぜひとも47都道府県薬剤師会と協定を結んでほしい」とした。

その上で、「災害協定書を締結していれば、機能しなくなった薬局でも、医薬品あるいは人材を活用できる。その後も、経済的な手当てもできる」とし、災害協定書の締結が、地元の薬局の資源を生かせるか否かの重要なポイントになっていることを示した。

## 分業の質的向上を目指す 大阪府薬



藤垣氏

大阪府薬剤師会はこのほど、第125回通常代議員会を開き、13年度収支予算および事業計画を承認した。事業計画では、かかりつけ薬局・薬剤師型分業の質的向上対策の重要性が指摘され、その実現には薬剤師職能に対する国民の理解が不可欠なることが再確認された。

藤垣会長は、「今回は、社団法人として最後の代議員会となる。大阪府薬は4月1日から一般社団法人として新たな船出をする」と説明。その上で、「法人改革については、今後、定款変更も含めていろいろ整備していきたい」との考えを示した。

また、渡嘉敷奈緒美衆議院議員が「薬のインターネット販売は、良い形で決着するように検討会で話をさせていたが、わかれわかれ薬剤師も時代の変わり目という状況に悩まれている」と訴えかけた。さらに、「大阪の地で、薬剤師が国民の健康と命を守る機会を設けたい」と考えている」と述べ、国の新規モデル事業展開を示唆した。

13年度の主な事業計画として、▽在宅医療への積極的参加の支援▽大阪e・お薬手帳の普及・啓発▽後発品使用促進への対応▽実務実習受入体制の整備および受入薬局への支援▽セル

また、京都府薬剤師会はこのほど、第122回通常代議員会を開き、2013年度事業計画・事業予算を承認した。事業計画では、地域医療への積極的な取り組み、薬学6年制における実務実

習の充実、生涯研修への対応に重点を置くことが再確認された。

川勝一雄会長は、「昨年4月の診療報酬改定や6年制薬剤師の誕生は、今年度から始まる新たな地域医療5カ年計画とも呼称し、今後の薬剤師の役割・方向性の重要な転機と考えられる」と指摘。さらに、「このような中、4月1日から一般社団法人として再出発する京都府薬は、多職種連



川勝氏

## チーム医療実践に注力 京都府薬

京都府薬剤師会はこのほど、第122回通常代議員会を開き、2013年度事業計画・事業予算を承認した。事業計画では、地域医療への積極的な取り組み、薬学6年制における実務実

習の充実、生涯研修への対応に重点を置くことが再確認された。

川勝一雄会長は、「昨年4月の診療報酬改定や6年制薬剤師の誕生は、今年度から始まる新たな地域医療5カ年計画とも呼称し、今後の薬剤師の役割・方向性の重要な転機と考えられる」と指摘。さらに、「このような中、4月1日から一般社団法人として再出発する京都府薬は、多職種連

一般名	コハク酸エステル製剤 避ける(禁忌)	リン酸エステル製剤 (添加物に注意して点滴)
ヒドロコルチゾン	サクシゾン・ソルコーテフ	水溶性ハイドロコルチゾン
プレドニゾン	水溶性プレドニン	コーデルゾール
メチルプレドニゾン	ソル・メドロール	
デキサメタゾン		デカドロン
バタメタゾン		リンデロン

知る、調べる、使う、がすぐわかる

# ポケット版 臨床医薬品集 2013

編集責任：星 恵子  
A6判 約1,100頁 定価4,200円(税込)

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<http://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。  
株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/